

このコーナーでは、病院施設や事業のほか、生活に役立つ“健康豆知識”などを紹介します。

市立長浜病院 腫瘍内科責任部長

竹治 智（たけじ さとし）



### 腫瘍内科

本年4月、当院に腫瘍内科が新設されました。腫瘍内科はただ馴染みのない診療科と思えますので、腫瘍内科についてご紹介させていただきます。

腫瘍内科は、がん診療、特に抗がん剤治療を専門とする診療科です。がんの発生部位にかかわらず、がんと診断されたときから緩和医療が中心となる終末期まで、がん患者さんの診療に携わります。腫瘍内科の歴史が長い米国では、腫瘍内科は循環器科と並んで大きな診療科で、抗がん剤治療のほとんどを腫瘍内科医が担っているそうです。そうすることで、副作用を抑えつつ治療効果の高い抗がん剤治療を受けていただけたらと思います。また、がん患者さんは、食欲の低下や痛みなど様々な症状

が出る場合があります。そのような症状を和らげる緩和ケアを早期から積極的に行うことで、がん患者さんの症状改善につながることも腫瘍内科の務めです。ところで、人の体は約37兆個の細胞でできています。それらの細胞は、もとは1個の受精卵が細胞分裂してできているので、みな同じ遺伝子をもっています。その遺伝子の一部に変化が生じてどんどん細胞分裂して増殖するのが「がん細胞」です。がん細胞には必ず、がんになるための遺伝子変化が生じているのです。それらの遺伝子変化に対する免疫力を高めてがん細胞を攻撃するのが免疫療法であり、がん細胞の遺伝子変化を標的にして治療を行うのが分子標的薬です。これら新規抗がん剤の開発は目覚ましく、抗がん剤治療は着実に進歩しています。抗がん剤治療の高度化により、腫瘍内科の役割はますます重要になっていくと思います。

腫瘍内科は、地域のみなさんに、身近で安心して最良のがん治療を受けていただける環境を提供します。

問 市立長浜病院

☎ 68・2300(代表)

## ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

### 長浜市指定文化財

「史跡 条里立石 白鳳時代 一基」

所在地 南郷町

指定日 昭和44年7月1日指定

と十条の境と、二里と三里の境の交差点に立てられた点石で、条里の境を示す点石の現存例は全国でも珍しいです。『淡海木間撰』によると、「土俗是ヲ背競石ト云ナリ。」とあり、江戸時代、地元では「背競石」として親しまれていたことがわかります。そのほか、当目町と大門町にまたがる山の中腹には、鬼が出るとの伝承が残る「八条岩」があります。この八条岩も、地図の上では、ちょうど八条の地点にあり、条里制とのつながりがあります。また、西主計町所在の慶蔵寺遺跡(平安時代集落跡)では、現状地割の区画に、条里畦畔を無視した建物が検出されており、これは従来の条里施行以前の地割をとどめたものと思われる。このように湖北地方は、条里制の遺構が残る地域として広く知られています。

南郷町集落の入口、県道東野虎姫線273号南側に大きな条里立石があります。自然石とされ、高さ一四七センチ、幅56.5センチメートル。奈良時代、日本の各地で土地の区画を整える事業が行われました。水田を、同じ大きさの区画にそろえて管理する条里制という制度ができあがったのです。古代の圃場整備と考えられ、1町(約109メートル)四方の区画を1坪とし、坪を6個並べて1条とした土地区画制度で、「条」は南北に並ぶ区画を、「里」は東西に並ぶ区画を指し、何条何里何坪でその土地の正確な位置や面積が簡単にわかるようになりました。平安時代にも引き続き整備が続けられ、近江の条里制の確立は平安中頃とされています。

南郷町に建つ立石は、条里制九条



▲条里立石(南郷町)

問 浅井歴史民俗資料館

☎ 74・0101